

# きゅうもじみついくらぶ 旧門司三井倶楽部

所在地/北九州市門司区

指定/国指定重要文化財、日本遺産



外観



内装

旧門司三井倶楽部は、福岡県の一番東、本州と向き合うところ（門司）にあります。鉄道で九州各地と、船で本州や中国大陸などさまざまな場所と結ばれていた門司は、商業活動を行うのに大変便利な場所でした。そのため、明治時代や大正時代には、門司にはいろいろな会社がやってきて、さまざまな建物を建てました。その一つが、旧門司三井倶楽部です。

この建物は、1921（大正10）年に三井<sup>みつい</sup>物産<sup>ぶつさん</sup>という会社が建てました。三井物産は、当時も現在も日本を代表する大きな会社で、当時は門司港を経由する貿易も行っていました。グループ会社の三池炭鉱が掘った石炭も輸出しています。この建物を建てたのは、三井物産の社員たちが集まるときや、門司に来たお客さんをもてなすときのためで、木造の2階建て、イギリス風のデザインで建てられて

います。1922（大正11）年には、有名な物理学者のアインシュタインも、妻とともに宿泊しています。

この建物は建てられたときから長い間、現在とは違う場所にありましたが、後に門司港駅の正面に移築されました。現在は一般公開されているほか、レストランとしても使われています。なお、三井財閥は門司港駅のとなりにも大きなビルを建てましたが、こちらのビルもまだ残っています。

【旧門司三井クラブに行ってみよう】

○JR門司港駅下車、徒歩1分